

「タキイ種苗研究農場」「京都大学生態学研究センター」で課外授業



(タキイ種苗研究農場)
岸田技術顧問からの講義



(京都大学生態学研究センター)
高林教授、小澤助手からの講義



(京都大学生態学研究センター)
実験：キャベツ株の誘因とコナガコマユバチの反応 高林教授を囲って「ちーず」



平成30年9月27日(木)、野菜・果樹学科1学年生21名が「タキイ種苗研究農場」と「京都大学生態学研究センター」を訪問しました。

午前中に訪れた「タキイ種苗研究農場」では、岸田技術顧問から「農家へ信頼のタネを届ける」会社概要や「特定遺伝子に注目した」品種改良などを重点とした研究等最前線の取り組みについて講義を聞きました。そして、学生たちの質問などに丁寧に対応していただきました。

午後からの「京都大学生態学研究センター」では、高林教授から「植物はかおりで助けを求めるなどの【かおりの生態学】」の講話を聞き、小澤助手から観察実験を通して、その真実を実証して頂きました。それを垣間見た学生らは、大きな感動を受けた様子でした。また、植物から発散する「かおり」を人工的に作り、ケミカルコミュニケーション体験ということで、学生2名1組となり「放出する人工的なにおい成分を嗅ぎ分ける」実験をしましたが、学生らは虫と比べ、においをかぎ分ける力がかなり劣っていることを実感したようです。

学生らは両施設とも初めてで、深い感銘を受けていました。